



2022年10月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年9月6日

上場会社名 くらす司株式会社
 コード番号 2695 URL <https://www.kurasushi.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中 邦彦
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理本部長 (氏名) 津田 京一
 四半期報告書提出予定日 2022年9月9日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 072-493-6189

(百万円未満切捨て)

1. 2022年10月期第3四半期の連結業績(2021年11月1日～2022年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年10月期第3四半期	134,756	21.8	382		2,989	111.6	1,711	121.0
2021年10月期第3四半期	110,647	14.7	817		1,412		774	

(注) 包括利益 2022年10月期第3四半期 4,054百万円 (326.6%) 2021年10月期第3四半期 950百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年10月期第3四半期	43.14	43.02
2021年10月期第3四半期	19.55	19.52

(注) 当社は、2021年5月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年10月期第3四半期	109,217	58,359	46.3
2021年10月期	98,989	54,657	48.7

(参考) 自己資本 2022年10月期第3四半期 50,561百万円 2021年10月期 48,238百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年10月期		0.00		20.00	20.00
2022年10月期		0.00			
2022年10月期(予想)				20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年10月期の連結業績予想(2021年11月1日～2022年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	182,477	23.6	902		2,567	19.1	884	53.5	22.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(2022年9月6日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年10月期3Q	41,399,600 株	2021年10月期	41,399,600 株
期末自己株式数	2022年10月期3Q	1,714,657 株	2021年10月期	1,743,030 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年10月期3Q	39,676,330 株	2021年10月期3Q	39,610,310 株

(注)当社は、2021年5月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期中平均株式数」を算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。また、業績予想の前提条件その他関連する事項につきましてはP3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2021年11月1日から2022年7月31日)におけるわが国経済は、コロナ禍からの経済正常化に伴い緩やかな回復基調となりました。また、海外におきましては台湾において新型コロナウイルス感染拡大がみられたものの、社会経済活動への影響は軽微にとどまりました。米国は力強い景気回復のもと好調な経済を継続いたしました。

国内外食産業におきましては、2022年4月以降、営業制限により2年以上に渡り営業自粛を続けていた居酒屋などの飲食店が再開するなど、外食市場は徐々に回復の兆しが見られます。しかしながら、正常化に伴う人件費の上昇がみられるなか、食品やエネルギー価格などの上昇に円安も加わり、厳しい経営環境が続いております。さらに2022年6月以降の新型コロナ感染症の第7波が人流を抑制し、先行き不透明な状況が続いています。

このような状況のもと、当社グループはお客様と従業員の安全を第一に考え、抗菌寿司カバー「鮮度くん」や「スマートくら寿司」導入など感染拡大を防止するための様々な取り組みを競合他社に先駆けて行い、当社のコンセプトである「見えないところを大切に」誠実に商品提供してまいりました。

店舗開発につきましては、日本において25店舗、米国5店舗、台湾6店舗を出店し、当第3四半期連結累計期間に3か国計36店舗を出店いたしました。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、全て直営で603店舗(「無添蔵」4店舗、「くら天然魚市場」1店舗、米国37店舗、台湾46店舗を含む)となりました。

引き続き日本国内に加え米国、台湾とも積極的な出店を行い、日本の食文化の海外発信に努めてまいります。

以上の結果、売上高は日米台3か国全てで過去最高を更新し、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,347億56百万円(前年同期比21.8%増)となりました。また、経常利益は29億89百万円(同111.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は17億11百万円(同121.0%増)となりました。

セグメント業績は次の通りであります。

① 日本

2022年1月、まん延防止等重点措置の適用により、人流の抑制や営業時間の短縮による影響を受けるなど厳しい事業環境が続きました。2022年3月にまん延防止等重点措置が解除された以降は客数に回復が見られましたが、6月以降再度オミクロン株の感染急拡大により人流の減少から客数減少などの影響を受けました。

当第3四半期連結累計期間におきましても、お客様の満足度を高めるべくさまざまな商品提案を行いました。販売促進におきましては、流通網の混乱により原材料確保が困難になるなか、2022年7月には今年度4回目となる「かにフェア」や「とろといくらフェア」等を実施、お客様からご好評をいただきました。また、フェアに合わせ「コナン」、「ワンピース」等有力なコンテンツとタイアップし、コラボ商品の販売やオリジナルグッズが当たるキャンペーンを実施いたしました。

店舗開発につきましては、新型コロナウイルス感染症の収束後をにらみ積極的な出店を継続いたしました。2022年5月にはグローバル旗艦店で導入している高級感ある「白木造り」や大迫力の「巨大浮世絵」を採用した「ジャパニーズモダン」が特長の「プラス型店舗」第1号店「京都店」をオープンし、7月には第2号店「大森店」をオープンいたしました。今後期待されるインバウンド需要の回復を見据え、引き続き都市部にも積極的に出店してまいります。

この結果、売上高1,122億37百万円(前年同期比12.7%増)、経常利益24億54百万円となりました。

② 北米

米国子会社 Kura Sushi USA, Inc. (KSU) におきましては、経済環境の好転に伴い消費全般が回復したことから好調な売上高となりました。前期までの、新型コロナウイルス感染症による営業制限中にもかかわらず新規エリアに積極的に出店した効果や、人件費の急上昇にスライドした商品価格の改定を行い、コロナの感染拡大以降初めて、四半期での黒字化を達成し急速に回復致しました。

インフレの影響が強かった上期の損失を挽回しつつも、すべてを吸収することは難しく、売上高116億11百万円(前年同期比195.9%増)、経常損失3億11百万円となりました。

③ アジア

台湾子会社 亞洲藏壽司股份有限公司 (KSA) におきましては、2022年5月以降急速に新型コロナウイルス感染症の拡大がみられ、5月～6月にかけて人流の減少により客数に一定の影響を受けましたものの、人気アニメ「クレヨンしんちゃん」とのコラボなどの施策により、当第3四半期連結累計期間を通じて堅調な売上高となりました。

この結果、売上高109億7百万円(前年同期比52.5%増)、経常利益8億46百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産総額は、1,092億17百万円となり、前連結会計年度末と比較して102億27百万円の増加となりました。これは、主に現金及び預金が22億61百万円減少した一方で、売掛金が11億68百万円、有形固定資産が122億13百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して65億25百万円増加し、508億57百万円となりました。これは、主に買掛金が17億90百万円、リース債務が48億87百万円それぞれ増加した一方で、未払法人税等が25億67百万円減少したこと等によるものであります。

純資産につきましては、為替換算調整勘定が13億3百万円、非支配株主持分が10億91百万円それぞれ増加したこと等により、前連結会計年度末と比較して37億1百万円増加し、583億59百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、本日(2022年9月6日)公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,748	16,486
売掛金	3,554	4,723
原材料及び貯蔵品	1,798	2,523
その他	5,363	2,904
流動資産合計	29,464	26,638
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	25,259	29,732
使用権資産(純額)	14,791	19,820
その他(純額)	16,692	19,404
有形固定資産合計	56,744	68,957
無形固定資産	899	1,203
投資その他の資産		
長期貸付金	4,380	4,469
差入保証金	6,132	6,464
その他	1,367	1,483
投資その他の資産合計	11,881	12,417
固定資産合計	69,525	82,578
資産合計	98,989	109,217
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,086	7,876
短期借入金	805	920
未払金	6,885	7,434
未払法人税等	2,676	109
その他	6,742	7,599
流動負債合計	23,195	23,940
固定負債		
リース債務	18,149	23,036
資産除去債務	2,371	2,665
その他	616	1,214
固定負債合計	21,136	26,916
負債合計	44,332	50,857
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,005	2,005
資本剰余金	7,622	7,710
利益剰余金	40,313	41,202
自己株式	△2,139	△2,095
株主資本合計	47,802	48,822
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	435	1,739
その他の包括利益累計額合計	435	1,739
新株予約権	354	640
非支配株主持分	6,065	7,156
純資産合計	54,657	58,359
負債純資産合計	98,989	109,217

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年7月31日)
売上高	110,647	134,756
売上原価	50,034	61,177
売上総利益	60,612	73,578
販売費及び一般管理費	61,429	73,961
営業損失(△)	△817	△382
営業外収益		
受取利息	37	41
受取手数料	180	125
為替差益	144	190
助成金収入	1,979	3,094
雑収入	70	101
営業外収益合計	2,411	3,552
営業外費用		
支払利息	116	163
雑損失	65	17
営業外費用合計	181	180
経常利益	1,412	2,989
特別損失		
固定資産除却損	99	27
減損損失	-	18
特別損失合計	99	46
税金等調整前四半期純利益	1,313	2,943
法人税、住民税及び事業税	881	828
法人税等調整額	30	330
法人税等合計	912	1,158
四半期純利益	401	1,784
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△373	72
親会社株主に帰属する四半期純利益	774	1,711

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年7月31日)
四半期純利益	401	1,784
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	549	2,269
その他の包括利益合計	549	2,269
四半期包括利益	950	4,054
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,135	3,015
非支配株主に係る四半期包括利益	△184	1,038

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、他社が運営するカスタマー・ロイヤリティ・プログラムにかかるポイント負担金について、従来は販売費及び一般管理費として計上しておりましたが、ポイント負担金を差し引いた金額で収益を認識することとしております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高、販売費及び一般管理費がそれぞれ278百万円減少しております。

なお、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、期首の利益剰余金に与える影響はありません。また、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年7月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	日本	北米	アジア	計	
売上高					
外部顧客への売上高	99,571	3,923	7,151	110,647	110,647
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	99,571	3,923	7,151	110,647	110,647
セグメント利益又は 損失 (△)	2,285	△989	116	1,412	1,412

(注) セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年7月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	日本	北米	アジア	計	
売上高					
顧客との契約から生 じる収益	112,237	11,611	10,907	134,756	134,756
外部顧客への売上高	112,237	11,611	10,907	134,756	134,756
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	112,237	11,611	10,907	134,756	134,756
セグメント利益又は 損失 (△)	2,454	△311	846	2,989	2,989

(注) セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。